

ORCHESTRA HAYDN DI BOLZANO E TRENTO-ITALIA

イタリア交響楽団

指揮
チョン・ミン

ソリスト
パク・ジェホン(ピアノ)
(ブゾーニ国際ピアノコンクール2021年優勝者)

PIANO : JAEHONG PARK

CONDUCTOR : MIN CHUNG

ブゾーニ国際コンクールの再現!!
チョン・ミンフンの血を受け継ぐ若き獅子とともに
イタリアの古都ボルツァーノから再来日

PROGRAMME

ロッシーニ: 歌劇「ブルスキーノ氏」序曲 G. ROSSINI, IL SIGNOR BRUSCHINO OVERTURE

ベートーヴェン: ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 op.37 L. V. BEETHOVEN, PIANO CONCERTO No. 3

ベートーヴェン: 交響曲 第3番 変ホ長調 op.55 「英雄」 L. V. BEETHOVEN, SYMPHONY No. 3

2023年1月30日(月) 19:00開演 (開場18:00) ザ・シンフォニーホール

MONDAY 30 JANUARY, 2023 7:00 P.M. AT THE SYMPHONY HALL

料金(税込み) **S席10,000円/A席8,000円/B席6,000円/C席4,000円/S席限定 ペア券18,000円**
【全席指定】 *S席限定ペア券はザ・シンフォニーチケットセンターでは、電話・窓口・館内プレイガイドにて販売いたします。 *未就学児入場不可

チケットの
お求めは

ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休) <https://www.symphonycenter.jp>
■チケットぴあ <http://t.pia.jp> (Pコード 226-780) ■e+(イープラス) <http://eplus.jp>
■ローソンチケット <http://l-tike.com> (Lコード 55262)

◆お問い合わせ: 日本アーティストチケットセンター 03-5305-4545 ◆主催: 日本アーティスト / ザ・シンフォニーホール



イタリア交響楽団

ORCHESTRA HAYDN DI BOLZANO E TRENTO-ITALIA

イタリア交響楽団（正式名称：ボルツァーノ・トレント・ハイドン管弦楽団（以降、イタリア響と略）は、1960年にイタリアのトレンティーノ＝アルト・アディジェ州にイタリア政府文化省の援助で創立された。

イタリア国内の主要なホールやハイドン・フェスティバル（エステルハージ）、ブレゲンツ音楽祭、アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ音楽祭（プレーシャ、ベルガモ）、モーツァルト音楽祭（ロヴェレート）、グスタフ・マーラー音楽週間（ドッピアーコ）、アントニオ・ペドロッチ指揮者コンクール（トレント）、チロル・エール音楽祭やフルッチョ・ブゾーニ・ピアノコンクール（ボルツァーノ）などの著名な音楽祭等に参加。また、アメリカ、オーストリア、ドイツ、ハンガリー、オランダ、スイス等へも演奏旅行をしている。2008年、ペーザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル公演で来日、東京と大津で演奏した。

オーケストラは、アバド、ムーティ、シャイー、インバル、ロンバル、ゼツダ、テイト、ロベス・コボス、マリナー等の著名な指揮者や有名なソリストとの共演も数多い。50年以上の歴史の中でアンドレア・マスカーニなどによる30年間の統括ののち、2003～12年、グスタフ・クーンが芸術監督に就任。2013年3月より、音楽学者のダニエレ・スピーニが芸術顧問を担い、2014年にはアルヴォ・ヴォルマーが首席指揮者に就任した。

2005～6年シーズンには、グスタフ・クーンの指揮でベートーヴェンの交響曲全曲演奏を行った。

イタリア響はAgorá, Arts, col legno, cpo, Dynamic, Multigram, Naxos, RCA, Universal, VMC Classics and Zecchini等より多くの録音をリリース。またイタリア放送協会（RAI）のテレビ、ラジオ出演も数多い。話題となった2019年の日本公演から3年ぶりの来日となる。



チョン・ミン (指揮者) CONDUCTOR : MIN CHUNG

2020年以来ボルツァーノ・トレント・ハイドン管弦楽団の首席客演指揮者と2015年以来、東京フィルハーモニー交響楽団のアソシエイト・コンダクターを務める。

さらに2022年からは韓国のカンヌン（江陵）交響楽団の音楽監督に就任。

今までにイタリア国立放送交響楽団、ポローニャ歌劇場管弦楽団、カリアリ歌劇場管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、マリンスキー歌劇場管弦楽団、ミラノ・スカラ座・アカデミー管弦楽団、パドヴァ・ヴェネト管弦楽団、メキシコシティ・フィルハーモニー管弦楽団、杭州フィルハーモニー管弦楽団、深圳（シンセン）交響楽団、チャイナ・フィルハーモニー管弦楽団、韓国室内管弦楽団、釜山フィルハーモニー管弦楽団、大邱歌劇場管弦楽団、杭州フィルハーモニー管弦楽団、九州交響楽団などを指揮してきた。

世界の歌劇場でもたびたびオペラを指揮しており、ハイライトとしては、ミラノ・スカラ座での「魔笛」、マリンスキー歌劇場での「蝶々夫人」、韓国国立オペラとの「蝶々夫人」「ドン・カルロ」「子供と呪文」、テアトロ・ポリテアマ・グレコでの「権姫」「ドン・カルロ」などが挙げられる。

ドイツのザールブリュッケンに生まれ、幼少時にフランスに移住。ピアノ、ヴァイオリン、フランソワ・ラバスのもとでコントラバスを学んだ。その後、韓国国立大に編入しヴァイオリンとドイツ文学を学び卒業。

韓国・釜山を拠点とする恵まれない境遇にある子どもや青少年を中心に構成されているオーケストラ、アロイシウス管弦楽団でデビュー。カーネギーホールや東京、福岡でも共演し、彼らの組織を積極的に応援している。イタリア交響楽団とは2019年に続き3年ぶりの日本公演となる。



パク・ジェホン (ピアノ) PIANO : JAE-HONG PARK

ピアニストのパク・ジェホンは、その超絶技巧と圧倒的な演奏で称賛されている。大胆かつ繊細な演奏家と評されるパク・ジェホンは、2021年のフェルチオ・ブゾーニ国際ピアノ・コンクールで勝利を手中に納め、同世代で最も人気の高いピアニストのひとりとして認められ、優勝のみならず4つの特別賞も受賞した。彼はまた、過去にはジーナ・パッカウアー国際ピアノ・コンクールやクリーヴランド国際ピアノ・コンクールのヤング・アーティスト部門で優勝している。また、ルービンシュタイン国際ピアノ・コンクールのファイナリスト、エトリング国際コンクール、ヒルトン・ヘッド国際ピアノ・コンクールなどで受賞している。

パク・ジェホンは15歳のときに、アルゼンチンのブエノスアイレスで国際デビューを果たす。またニューヨークのフリック・コレクション、オランダのアムステルダム、ユトレヒトでもデビュー・リサイタルを行った。またイタリア、ポーランド、スペイン、ルーマニア、ルクセンブルク、アメリカなど多くの国々でリサイタルを行っている。ソリストとして、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、エルサレム・カメラータ、ユタ交響楽団、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団などと協演。トンチエ・ツァン、ジェームズ・フェデック、マッシモ・ザネッティ、オメール・メイア・ウェルバー、アヴナー・ピロン、アルヴィ・ヴォルメルなど一流指揮者と共演している。

今後のハイライトとしては、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス、ミュンヘン・ヘルクレス・ザール、ロンドン・スタインウェイ・ホール、ウィーン・コンツェルトハウス等への出演、イタリアでのリサイタル・ツアーなどがある。また、マエストロ・ジャンドレア・ノセダ指揮/ECユース管弦楽団(EUYO)、マエストロ・チョン・ミョンファン指揮/キョンギ(京畿)フィルハーモニー管弦楽団、イ・ボメリッジ・ムジカーリ、ハイドン管弦楽団、ヴェローナ・シンフォニカ、トスカニーニ管弦楽団とも共演する。彼はまた、オリンパス音楽祭、トンヨン国際音楽祭ほか多くのフェスティバルに招待されている。ブゾーニ国際ピアノ・コンクールでは「室内楽特別賞」も受賞し、2022/23年シーズンにはシューマン・クアルテットと共にツアーを行う。

パク・ジェホンは2022年2月、ユニバーサルミュージックと最初のCDをリリースした。ベートーヴェンのハンマークラヴィア・ソナタ、F.ブゾーニのショパンのハ短調前奏曲による10の変奏曲、J.S.バッハ(F.ブゾーニ編)「目覚めよと呼ぶ声あり」が収録されている。

パク・ジェホンは1999年、韓国のスウォン(水原)に生まれ、7歳でピアノを弾き始め、早くも9歳で最初のステージに立っている。韓国芸術総合学校でキム・デジン教授に師事している。